

国立劇場おきなわ「第4回新作組踊戯曲大賞」の入賞作品の決定について

国立劇場おきなわでは、沖縄の伝統芸能の保存振興を図ることを目的として、組踊をはじめ、琉球舞踊、三線音楽及び沖縄芝居の上演、組踊伝承者の養成等、諸事業を実施してまいりました。この「新作組踊戯曲大賞」の公募事業は、未来へとつながる新たな作品の創造を目指して、組踊上演300年記念の年にあたる令和元年度からスタートいたしました。

第4回目となる今回は、8作品の応募のうち応募規定を満たした5作品について、「作品の構成力と展開（発想・意図）」、「登場人物のせりふ表現」、「音曲の選曲と歌詞の表現力」、「舞台にのせた場合を想定して」の4つの項目を指標に厳正に審査した結果、下記作品の入賞を決定いたしました。

今回の応募作品は、いずれも個性豊かで作者の意欲と想像力に溢れており、どの作品からも、新作組踊戯曲としての新たな可能性と、伝統と創作の融合に果敢に挑む姿勢が感じられます。今後、さらなる練り上げを重ねることで、作品の完成度が一層高まっていくことを期待いたします。

本事業を通して、沖縄の伝統芸能のさらなる振興と新たな作品の創出が図られるよう、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

大賞 にしおかさとし 西岡敏 作品「命の文（ぬちぬ ふみ）」

琉球処分という歴史的背景をもとに脱清人を主人公とした非常に独創的な物語となっている。時勢に抗う里主や里主の遺志を継いだ男装の麗人が活躍するという物語の展開や従来の組踊にない民謡を選曲した点も含め独創性に溢れ、史実とフィクションを巧みに融合させた意欲的な作品である。

場面展開を明確に伝えるせりふ表現力や構成が優れている一方で、説明的な詞章や音曲の長さが冗長に感じられる箇所が見受けられ、工夫が必要であろう。組踊の作品として活きる表現方法を想定し整理することで、より一層魅力的な新作組踊になると思われる。

奨励賞 おおしろたかゆき 大城貴幸 作品「唐のくぐつ（とうぬ くぐつ）」

「くぐつ」というモチーフを軸に、主人公の娘の心の揺れ、寂しさを描き出す物語である。メルヘン的でありながら組踊の様式を踏まえた安定的な構成で、音曲は既存曲に加え、物語に即した創作曲を配している。特に中国風の音曲・楽器を取り入れた点が挑戦的であり、意欲的な発想が評価できる。また、舞台表現としてのくぐつの踊り、遊びは見所であり、音曲も聴き所として興味深い。

せりふ表現については、琉球古典語の表現に未熟な点が見受けられる。また、物語の筋運びを今一度整理することで、さらに作品の可能性は高まるだろう。

〔備 考〕

1. 受賞作品の作者には、賞状と賞金が贈られます。
(大賞 20 万円、奨励賞 10 万円、佳作 5 万円)
2. 表彰式は、令和 7 年 12 月 13 日(土)16 時 15 分より国立劇場おきなわ 小劇場にて行います。
3. 次回「第 5 回新作組踊戯曲大賞」の公募については、令和 9 年度(2027 年度)の実施を予定しております。

〔参 考〕

・審査選考の観点

作品の構成力と展開(発想・意図)、登場人物の「せりふ」表現、音曲の選曲と歌詞の表現力、舞台にのせた場合を想定して

・「第 4 回新作組踊戯曲大賞」選考審査委員

波照間 永吉【名桜大学大学院国際文化研究科特任教授、沖縄県立芸術大学名誉教授】

島袋 光尋【国指定重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)舞踊】

比嘉 康春【国指定重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)三線】

富田 めぐみ【琉球芸能大使館代表、演出家】

嘉数 道彦【沖縄県立芸術大学准教授、組踊実演家】